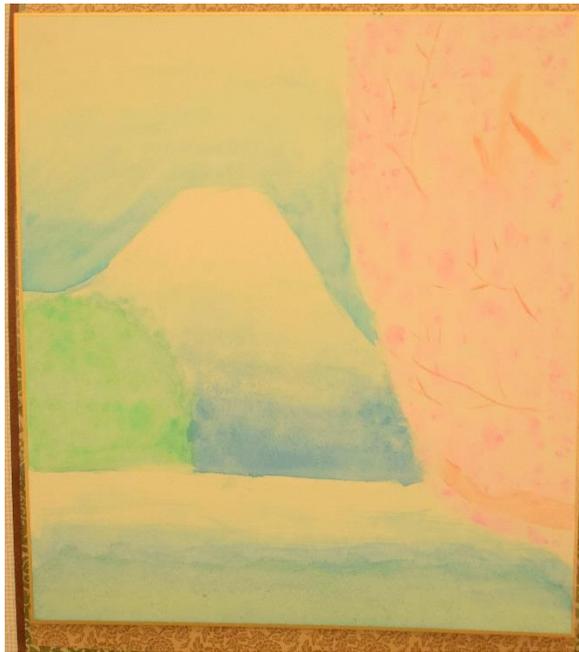


3 スワさん（小学6年生）



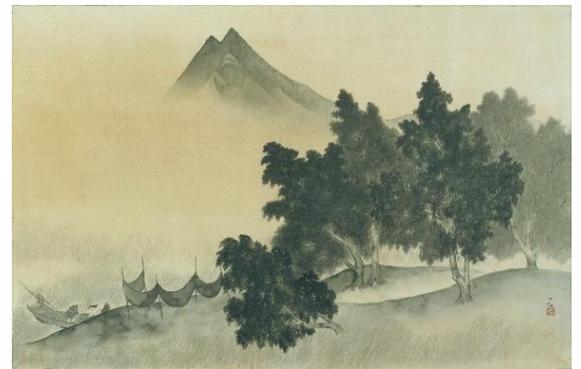
作品名「富士山とさくら」

作者の言葉

湖から見た富士山とさくらを描きました。富士山のグラデーションをつけるのが難しかったです。

学芸員からのコメント

ピンクと緑、そして水色からなる清々しい色彩から春の空気感がよく感じられます。手前にある桜を画面右に見切れるように大きく描き、緑の木々を反対の左端に、そして遠くにそびえる富士の山をその中間に配することで、この風景の横への広がりを感じさせます。同時に、それぞれのモチーフを目が追うことで、遠近感をより強く感じることができ、何気なく描きながらも、目の前にひろがる風景の広がりとお行きを存分に楽しませてくれる作品です。さらに、山の高さ、湖の深さなど、水色によるグラデーションによってうまく表現されており、桃色と緑色との色彩対比とともに色彩感覚に優れていることがよくわかります。



横山大観「紫山返照」

スワさんの作品を見て思い出した作品があります。横山大観の「紫山返照」という作品です。大観のこの作品も、右側に描かれた木々から、左側に描かれた漁師たち、そして画面中央にそびえる筑波山（紫山は筑波山の別称です）と近景から遠景へと、スワさんの作品と同じような目の動きによって風景の奥行きを感じることができるのです。

ここで注目してほしいのが、手前の風景と山との間に金色による霞をたなびかせているところです。湖岸や山裾を霞で隠してしまう、いわばあえて描かないことで、そこに描かれているであろう情景を想像させ、同時に筑波山という神の宿る山の神々しさや深遠さを表しているのです。こうしたところに大観の芸術性の高さを見ることができます。